

明理会中央総合病院 外科後期臨床研修プログラム

研修責任者：松山 秀樹

【病院の特徴】

2009年11月「明理会中央総合病院」が北区東十条の地に誕生しました。

前身である旧大和病院は昭和51年に開設された、IMSグループ（板橋中央総合病院グループ）で唯一の、腎・泌尿器専門病院であり、板橋中央総合病院の近隣に位置することから、長らく同病院のいわば泌尿器科部門として独立するような形で地域医療に携わってきました。2009年11月、これまでの『大和病院』から『明理会中央総合病院』へ病院名を変更し、24診療科、病床数311床へと診療の幅を大きく拡大いたしました。これからも地域の開業医、医療機関等と密接な連携を図りながら、早期診断・治療を提供し、地域住民の皆様が安心して受けられる『地域密着型の医療』の実現を実践していきます。また救急医療・24時間体制の地域中核を担う総合病院を目指しており、今まで以上に、都内はもとより、近隣他県からも、昼夜を問わず受診、紹介される病院を目指しています。

【研修目標】

初期研修2年間を終え、外科を習得しようとする方、あるいは引き続き外科の研修を希望される方に日本外科学会専門医の資格を取得するためのプログラムを用意しています。外来診療、手術、検査、病棟業務等を通じて、外科診療全般を一人前に行える手技を身につけ、日本外科学会専門医となるための外科的知識や診療技術の習得を目指します。医の倫理にもとづく診療を適切に実施し、境界領域の疾患の処置についても的確且つ科学的に対処できる診療技術習得を目指します。

【研修の実際】

外科医局（一般外科、消化器外科、乳腺外科）に所属し、外科スタッフとして業務にあたります。習熟度に応じて主治医として診療にあたり、高度な症例では副主治医として周術期管理を行います。日本外科学会の定める専門医取得に必要な臨床経験を積むため、当院の心臓血管外科、麻酔科などをローテーションします。外科当直医として救急外来の診療に参加します。外科外来を週1単位担当します。研修期間は専門医取得までとし、以後の在職については個別相談としています。

○1年目（卒後3年目）

指導医とともに外来を行い、病棟も担当し、手術の研鑽を積みます。診断から検査、手術、術後管理まで実習していきます。

：虫垂炎、ヘルニア、痔核などを主治医として執刀。

：内視鏡、腹部エコー検査、外傷の初療や緊急手術の助手など。

○2年目（卒後4年目）

外来、病棟、手術等、全般にわたって独り立ちとなります(もちろん指導医は見守ります)。研究日も一日となり、外科学の中で関心を持った領域、自分の研究テーマに沿った形で過ごし、専門知識を深めていきます。

前半：心臓血管外科、麻酔のローテーション

後半：腹腔鏡下胆嚢摘出、胃切除、結腸切除など

○3年目（卒後5年目）

1年次2年次で研鑽した技術、知識を充実させる時期です。専門医として外科診療全般を網羅した診療技術の習得を目指します。年次の終わりには一人前の外科医としてご活躍いただける診療技術が習得されます。

専門医取得に向け、自己学習もしていただきます。

：他施設や関連施設での研修（研修中に研究会や全国学会で発表）

【プログラムの特徴】

研修は外科指導医もしくは専門医の指導の下で行います。多くの症例より外科専門医となるための知識や診療技術を身につけていただくと共に、患者様のみならず、そのご家族の心情も踏まえた診療を進められることをコンセプトとしています。外科分野の特殊性を理解し、科学的根拠にもとづいた医療を実践していけるよう指導していきます。

①外来

問診、検査（特に内視鏡検査）、そして診断、処置、手術治療と外科臨床医として、患者様を的確に診療できるようにします。

②入院

担当医として患者様を受け持ち、術前術後管理だけでなく終末期医療も携われるようにします。

③手術

外科手術の際（内視鏡手術、開腹手術いずれも）には、術者あるいは第一助手として入室し、技術を習得させます。

基本的には外科単一のプログラムとしていますが、希望があれば板橋中央総合病院とも連携し、研究日には他科で研修を受けることも可能です。また、リサーチを希望される先生には大学、あるいはがん専門病院との連携もっておりますので、そうした要望にも十分に答えることができるでしょう。

【関連学会及び取得可能な資格】

日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医（予定）
日本消化器内視鏡学会専門医（予定）
日本消化器病学会専門医
日本内視鏡外科学会専門医（予定）

【研修責任者】

松山 秀樹 院長 昭和 57 年 日本大学卒
日本外科学会指導医
日本消化器外科学会指導医
日本消化器病学会指導医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構 暫定教育医
日本臨床外科学会評議員
日本肝胆膵外科学会評議員

【専門医・医局員】

白 京訓 医長 平成 8 年 帝京大学卒
日本外科学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本大腸肛門病学会専門医

日野 眞子 昭和 63 年 川崎医科大学卒
日本外科学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本乳癌学会認定医
検診マンモグラフィー読影医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器外科学会認定医

岩崎 晃太 平成 9 年 帝京大学卒
日本外科学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本がん治療認定医

荒井 武和

平成 10 年 帝京大学卒
日本外科学会専門医
日本消化器内視鏡学会指導医
日本大腸肛門病学会指導医
日本消化器外科学会指導医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
内痔核治療法研究会四段階注射法講習会（ジオン注）修了

日比 康太

平成 12 年東京医科大学卒
平成 19 年東京医科大学院卒
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医

澤田 紀子

平成 21 年 福岡大学卒
後期研修中

【研修期間】

3 年間

【処遇】

身分：常勤医

給与：月額 583,000 円（卒後 3 年目）、当直手当別途支給

保険：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、医師賠償責任保険

宿舍：住宅補助有、学会・研究会への参加費支給有

【募集人員】

各年度 若干名

【後期研修後の進路】

同院及び希望を鑑み、法人内関連病院にてさらに多くの経験を積むことができるシステムを組み込んでいます。